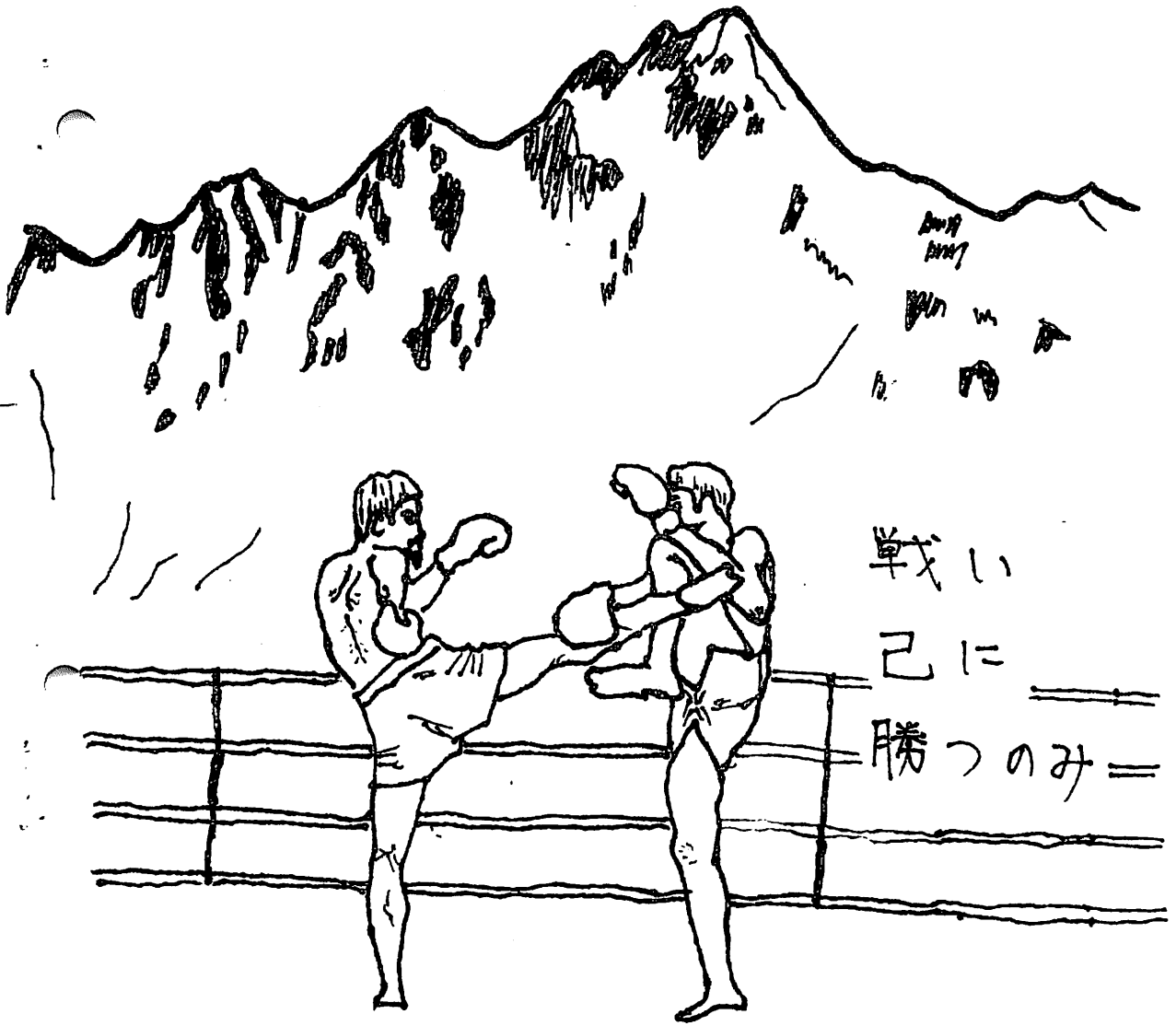


# 無雪期合宿

・個人山行

報告書

1999年度



戦い  
己に  
勝つのみ

# 信州大学山岳会

⑤ 目次はありません。

# 北アルプス縦走 7/31 ~ 8/11

(横)

メンバー: 横山 勝兵 中川 隆志 野川 謙介

7/30 サマテン搬入の日。この日に上高地に上からておく。ツバースパッキングしたが、スイカのなんとじやまなこと(うそ)。いよいよ明日からだ。

7/31 サマテン 新中尾峠 焼岳 新中尾峠 槍見 穴滝上 T.S

510	810    830	935    1020	1100    1115	1320	1500
-----	------------	-------------	--------------	------	------

快晴。言うことなし。朝起きて、誰にも見送りせずにサマテン。それにしてはこの重さはなんなんだ。ぐんぐん高度をかせぐが、このままだとリーダーとここではないと思い、笠ヶ岳までという予定を変えて焼岳でスイカを(う)ことに。峠からは3人で交代してスイカをかつき上げる。山頂は申し分ない眺望で、そんな中たべるスイカはうますぎる。すごすぎる。(毎日は大ぢがい。順調に槍見まで下山！ここで明日のことを思っか1年生がもつて行きたいという時間もあるし...と思い、錫杖決出合まで行くことに。が、山道に入るとたん1年生バテたすというわけ、沢地たつたところでもたえる。しかしここで正解だったようだ。この日のスパゲッティは格別。今日はよくあつた。明日もがんばろうと心に誓った。

8/1 TS 雷鳥岩 笠ヶ岳 TS

515	1015    1030	1305    1340	1355
-----	--------------	--------------	------

早速おぼろ。鼻をとり直して出発。錫杖はいつ見てもすごい。それにしてなんという登りだ。この日は予定の早山頂にはどっぴつ。パイナップルうますぎ。芯までくた。口が「ゴゴ」テ場でのんだココアも格別。あと、この日はテ場代白はらわなかつた。

8/2 TS 双六小屋 双六岳 三俣蓮華岳 三俣山荘 T.S

530	945    1000	955    1120	1215    1235	1305
-----	-------------	-------------	--------------	------

今日も快晴。すばらしい。扶父平はアルプス(ヨーロッパ)にいる感じがした。今日は快調にはばす。すばらしい1日。あつというまの1日。この縦走がはじかた。TSでのうんこは粘りこ。

8/3 TS 鷲羽岳 水晶岳 赤牛岳 奥黒部ヒュッテ

510	635    650	850    920	1260    1225	1555
-----	------------	------------	--------------	------

しよおまの400cupは大した事なかつた。途中の本で野川がうんこをしていて、横山が川が待たれて、目の前をうんこのかいた氣が飛んでいきた。なかなか恐ろしい。水鏡小屋の手前で横山の鼻がスパーク。1人にかぶる鼻推姿でたつた。その直後、今度はビールがスパーク。うんこはかない。水晶から先はすばらしすぎる。人は少ない。後継広い。山は深い。天気は雲一つない。夏山の感動してしまった。赤牛から先は急な下りとしてまつかめたが、良い1日には変わりなかつた。テ場について30分は皆がたもしたからなかつた。この日の極めつけは、10ミカンスパーク。我々3人はこの日、10ミカンを別々に告げた。さうなら、この頃から中川の口が消しか大フィーバーとなる。

8/4 TS 平ノ渡場 五色か原 T.S

725	940    1020 ~ 1030    1040	1425
-----	----------------------------	------

この日はゆのたリモットの1日。永平な道を歩き、渡場でくつき、あとは100cupのみ。途中、またも鼻血が大スパーク。すまじかつた。五色はなるほど、良い所だ。チングルマが美しい。ここでゼリーと木目大スパーク。なんだ最初かこのんでありかエかつた。

8/5 TS 大住山 大汝山 剣沢TS  
530 940||950 1005||1045 1240

お天気が良かったが、すずしく快適な稜線歩きに終始した。し岳、鬼岳、龍王岳の辺りは冬にきたらなかなかすごしておもしろそう。一ノ越から先は久々に大量の人を見た。このころから晴みだして、快適なもの。しかも、秋田氷高の子たちがさわやかにかわいい。3人とホムセン。そこから先は彼女たちにおいつくため、ペースも上がり、アツというまの1日でした。

8/6 TS 剣岳 TS  
615 915||1020 1240

剣岳ヒストン。まあ、6時すぎにはおはすいていまして。と鼻打たされたがその人のすごいことといったらおもしろい。大島の高校生連をはじめ、数々のおばさんおじさん連。でも大島の高校生連はかわいかった。そこの大人ときたら、「早くいけてんだよ」とか「岩はリズムで登るんだよ」とか、手こずる高校生に対して勝負心もいひやがって、腹が立つ。カニのたてばいばいなかなか面白い。山頂からはハッパよく見える。1年生2人のあるきも不安はなし。面白い1日でした。この日伊那ワンの友だちから鞍物を大量にもらう。また、ウイスキーなくなる。

8/7 TS 真砂沢 仙人池 阿曾原温泉TS  
600 740||800 1040||1100 1420

またまた快晴。雪渓はすべりやすいが皆危げなく通過。長次郎谷も今年は雪が降りたので、仙人池からの眺めはいつもながら絶景。阿曾原までのかたみ道。途中雪渓も出てくる。今にも消えそうでこわい所も多く、すべりやすいので要注意。阿曾原にはいきました。あのおばちゃんにはまっくく20年前に逢いたかたと思わされてしまう。この日横山のコンデミルがスノー。沢での氷風呂は最高。中川がチノボをゴシゴシあらっていた。

8/8 TS 樺平 餓鬼山 避難小屋  
530 1015||1045 1515

水平道はいつながらすべらない。あの黒部阿社大な景色に感動しないやつはいないだろう。もう一度、今度は秋に下ノ廊下とつなげに行きたい。樺平ではミースとアイスといったく、最後それにしても野川はツバリとまげないやつ。全く腹が立つ。天国を味わったあとは地獄を味わう。あーおる。整りがキツすぎる。数時間皆無言。みんなバタバタ。野川は竹になっていた。それでけこうはやく小屋につく。この日は本当にお疲れさま。蚊にこせられるから首熱睡。

8/9 TS 餓鬼山 唐松岳 天狗山荘TS  
525 610||620 1020||1050 1415

途中の水場は良い所だ。この道は人がいなくて物好きにはいい道だ。不帰も降生しかりは足どり何も問題なし。天狗の大下りの7合も奪勝。幸々天狗山荘に着。伊那ワンの別の隊がいて友達とはしゃぐ。3年生の人と語る。知っている人におうのはいいもんだ。

8/10 TS 白馬鍾ヶ岳 白馬岳 白馬大池 風吹大池TS  
620 725||735 955||1000 1150||1200 1530

今日はかす。はじめての天気だ。途中、かごと石風におう。元気がうた。あ、人づかいなれ、さいふを失くすにやると。その後ムクにあつたとき、彼はなにかまげんか悪そうだった。大池でまた晴みしてくるとこぼれ晴れる山行だ。風吹天狗原にいたとき、すごい感動の嵐がおほせてきた。そこからホムセンおいてTS着。野川が氷道の水で足をあらって小屋のいいムにおこらる。夜11時すぎでトリア大会。外にてと星がまたいた。とてもよい夜。

8/11 TS 北川谷馬 しいい最終日。ひたすら峠を越えて馬か。月前に見たときはおもしろかった。松本でのテントの味もよかつた。おもしろい7日間。この旅を振り返る。

縦走合宿、反省と感想 横山 瑞丘

～反省～

へ。このかん。まあ良い経験になったといえはたが去年の  
~~反省~~が全く生かされてない。ただ山がたこは、へ。かには  
なくても大丈夫というこ。

リ。タ。こ。では、気体たこは言たし、降生をそれなり  
うまくまとめ、かつ仲間よくまと満足しているが、それは  
少人数ではいなし。合宿くらいの大人数のときにどう好  
処できるかがこれから求められてくるのではないか。  
まあゆえに今回リ。タ。こ。をしたことは真にたこは確か  
である。おれはこをこの先 どう生かすかにかかってくる。

～感想～

真に。楽しすぎる。まず天気が良すぎる。そしてメンバーに  
恵まれた。縦走がこは良いものではないか。たこは。  
アホと言われた。たこは。降生にして、体力的にも精神  
的にも成長しただろうし、自分にとり、まじかり、である。  
この経験はまじ役に立ってしまっただろうな。  
11日目、風吹天狗原に着いたとき、6年前、同じ所で7人感  
動したのを思い出した。今回もまた同じ感動を味わった。  
縦走の計画を立てたとき、もう一度あそこで何も考えず  
たこすんでみたいかと考えてきたのがこのルートである。今回の縦  
走はもう一度あの時の気持ちと体感すること、原点に戻るため  
のものだった。たどり着いて、中川と野川が自分を先に行かせてくれた

とき、涙が出るほどうれしかった。泳ぐの気持ちと  
いうのはたまたま味わえないのかもしれない。しかし、  
この気持ちを知るといふは、ずいぶん良い品行が養わ  
れる気がする。そうそう、それと良いメンタルに育ちて  
いふは”...



## 縦走合宿の反省と感想

### <反省>

我々ジャンボ班は日程の関係で三グループの中で一番最初に用意を始めたが何せ僕ら一年生にとっては何もかも初めてのことであり結局出発前にドタバタしてしまう羽目になってしまった。やはり準備は最低でも出発日の二週間前位までには始めたい。出発日にもよるがもしテスト期間後すぐ出発するつもりならテスト期間前までに出来ることはすべてやっておくべきである。テスト期間中は何かと忙しくドタバタしているので忘れ物もしやすい。

やはり上手なパッキングは山歩きをする上で必要不可欠な物だと思う。後は十分な食事と睡眠。無理をしないことも大切だ。今回の合宿では体力的には特に問題はなかったが、熱による疲労には対処し切れなかった。標高600mの樺平からの1000mアップは熱い午後という事もありかなり体力的にきつかった。水分補給を怠ったため脱水症状をも引き起こした。水は命であると思う。

少人数での山行は一人一人に分担される責任が大きいので、各自がその意識を持って行動しなくてはならない。また一人が全体にかける迷惑も大きくなるため、山ではチームワークが予想以上に必要だとも感じた。

最後に私事だが昼食はなるべくプリンシプルを使わないこと。自分はおいしく頂いたけれどかなり不評だったらしい。

### <感想>

計画前はただひたすら心配だった今回の縦走合宿でしたが、終わってみると拍子抜けする位早く終わってしまいました。しかしこれは決して簡単で楽だったという意味合いではないですよ。正直生まれてこの方これまで汗をかいたことがあるだろうかと考えさせられるくらい激しい行程日もありました。しかし不思議な物で終わってみるとつらいことや悲しかったことの記憶は薄らぎ逆に楽しかったことや感動したことの記憶はより一層思い出されます。そして雄大な北アルプス連峰の頂から見た素晴らしい風景。最高でした。十二日間という長期間の山行を成功させた理由はやはりジャンボ横山さんのたくいまれなるリーダーシップと中川先生の熟成した人格にあったと思います。それに比べて自分はみんなの足をひっぱってばかり……。本当にどうもありがとうございました。いろいろありとても楽しかった山行でした。

K. Nogawa

# 縦走合宿報告

1回 伊川隆志

縦走前は様々な声耳にし12日間予定通り歩けるのか不安に悩んでいた。  
ふたを開けてみてもその道は険しく登ってはばかり下ってはばかりの山行、けれど  
楽しく充実した合宿であった。地形図を見れば当初からアップダウンの激しい  
コースであり、毎日1000upか1000downのいわれながらある道なりである。実際  
歩いてみると、ザックの重さ肩にぐいぐい、体力を初日から奪われて。1日目の  
不慣れ、嫌な一か玉目の汗をかき前ということも、下る下る。1日目の最終  
ピッチは欲張りペースもありバタバタ下った。だが2日目以降は、重さにも  
なにも慣れ、足取りも軽くなり、下ることむしろ山を跳ねる余裕が出てきた。  
いすれの山頂からの眺望も初めて見る風景であり、しばし見とれた。

- 焼岳 ----- スイカが異常に美味かった。おぼちゃん 縦走唯一の写真早く送って。
- 笠ヶ岳 ----- 2000upの後ハイテクアールにむせほりついた。これぞ美味し。
- 赤牛岳 ----- 灼熱のアリゾナ大地。パミユ 逝く。埋葬直ぐの木はどの位成長しよう。
- 読賣新道 ----- 西の下り地獄。もう行えたくない。今縦走で一番辛かった。
- 平ノ渡 ----- ニルはのんびりして一時を過ぎる時は、下るとあの下りていつからか。
- 水島~五色 ----- 白人のおぼちゃんも異常に早く。日本人のおぼちゃん一行は異常に遅かった。
- 水平道 ----- 絶景。絶壁 よくニルは山道をついてはもつて。七ヶ岳、下りて感謝したい。
- 剣岳 ----- 大王くかき下る岩体夕陽が岩肌を照らししばし見とれる。
- 剣ピストン ----- 大渋滞。ニルはことあるのか、秋田北高校 広島の高松は。頑張った。  
農下は いろに。

- 樺平~鯨島山 ----- 炎天下の登り。登りに体力奪われる。感じる。
- 唐松岳 ----- 初めて見るコマクサ。20年かけや、とこの大王。小工は生命の大王のパーを
- 10ヶ隊 ----- 山行途中で仲間に出会う。会話は各自達の山行に合わせたもの。互いに  
皆互いの無事に安堵し、言葉にのらぬ思いを言葉に託して話している。
- 風吹大池 ----- 終わってしまつた。やり直した。後は帰るだけ。山中に残って下りおぼ  
平地に戻りては、おぼは。しばしトランプに興じる。

長く短い12日間。差し入れをしていって先陣。いつか元気な下吾郎。暖かい目々  
見守ってもらって、ジャンボ工。感謝、感謝。思い出に残る縦走に、おぼは、おぼは。

# 北アルプス縦走

・期間) 8/6 ~ 8/24 (13+5)

・Xバー) 横山N(2), 権原(2), 石田(1)

8/6 快晴

3:30 起床  
4:20 出発  
5:15 登山口  
7:40 ニ本松  
12:30 シキ割  
16:20 白鳥小屋

前日に親不知まで行き馬寝する。翌朝、16:00目から汗がうらうら状態。連日の快晴で水を採るのに苦労する。シキ割では2時間かけて水をくみ、その2.3分後一同が愕然となる、50mもいかなければ立派なびらご付の水場があった。それ以外はどこにも問題もなくいいペースで歩けた。白鳥小屋からは日本海に浮かぶ夕日が見えて最高だった。

8/7 快晴

5:00 起床  
6:10 出発  
8:30 黄蓮の水場  
11:20 梅海山荘

行動は短かったが、この日は異様におつかった。梅海山荘に着いた時には、お判の暑さにうらうらした。夏は早目に出て、おすいうちに行動するのが一番だと思った。白鳥に続いて梅海でも、杖の持ちこたビーにそろんで飲んだ。後は野郎さんパン/Tでホーっとしていた。

8/8 晴れ時々曇り

3:00 起床  
4:10 出発  
12:45 長梅山  
14:20 朝日岳  
15:30 朝日小屋

今日は終止太陽かくもに隠れりて、快適に行動できた。前日の夕方暑さはもうかんへんして欲しい。黒岩平~アヤノ平辺りは何度きてもいい所だと思った。

8/9 晴れ時々曇り

3:30 起床  
5:00 出発  
10:20 雪倉岳  
13:30 三因境  
14:17 白馬岳  
15:00 頂上宿舎

雪倉まで思ったより時間がかった。登りでは荷物の重さもあるが、またペースが遅い感じ。白馬でXロンを食おうとするが、白馬に近づくにつれ、くも。山頂では何にも見えない。写真を撮り、ととと、テント場へ。



8/10 <モ11>の晴れ  
 3:00 起床  
 4:35 出発  
 6:25 鐘ヶ岳  
 7:35 天狗山荘  
 13:35 唐松岳  
 15:30 頂上山荘

朝、順調に出発したが、鐘ヶ岳で自分の貴重品の入ったバゲージがないのに気づく。2人に天狗山荘まで先に11つもらい、自分は杓子まで走り戻すが、ここにもない。あべし、と感じた。た。あきらめて山荘に向う際、沼の木隊に出た。2人と合流し、唐松に着く頃には天気も晴れ、食羽がける方向に望めた。ちよと気分も晴れる。(バゲージは後日見つけました。新潟の太田さんお礼がいろいろございました。)

8/11 <モ11>  
 3:00 起床  
 4:35 出発  
 8:30 五竜  
 13:00 キレット小屋  
 15:25 鹿島槍北峰  
 16:12 南峰  
 17:50 冷池山荘

今日は長かった。キレット小屋まで来た時によやく先が見えたという感じだった。八峰キレットではイッシーが恐がりまわっていたが、心にかく無事に冷池まで着けてよかった。この夜、渡木のせいか全員下界の夢を見てハーンとなる。

8/12 <モ11>  
 4:20 起床  
 5:20 出発  
 7:00 爺ヶ岳  
 9:36 新越山荘  
 14:30 針1木岳  
 15:10 針1木小屋

今日は全員モロモロと歩いた。道自体は短調で、新越～赤沢岳間はやたらと人がいて、道も水平だった。その後針1木までほんたすら登り、テニ場に着くと雨が降り始めた。この日からはずっといい天気になる。

8/13 <モ11>  
 4:20 起床  
 5:35 出発  
 6:30 蓮華岳  
 8:00 211  
 11:00 船室小屋

この日は鳥帽子までの予定だったが、渡木をためないように船室で切った。2時頃から雨が降り始め、七ッ降りに。雷もゴゴゴ。早々に切り、正解だった。

8/14 雨

4:00 起床  
5:55 出発  
10:30 不動岳  
12:55 鳥帽子分枝  
13:20 鳥帽子小屋

朝から雨。雨のなかの船窪辺りの登りには  
頭に来た。なんつ悪い道なんだ。  
不動岳で再び陸線に出た時はうれしかった。  
3人で寒さに震えながら鳥帽子に着く。  
鳥帽子のズレの包いは生涯忘れないだろう。

8/15 ぐれい的小雨

3:30 起床  
5:10 出発  
8:05 野口五郎岳  
10:50 水晶岳  
12:53 鷲羽岳  
14:00 三保山荘

朝は青空が見え、槍を横目に見ながら登る。  
ついにここまで来たかという感じ。  
しかし、除々にくもり、小雨になる。三保の  
テニ場に着いたとたん大雨になる。  
結局ビチョぬれ。明日からの行程がどう  
心配になる。どうが晴れてくれ。

8/16 雨

3:30 起床  
5:15 出発  
7:00 又々大岳  
11:25 干太乗越  
12:25 肩の小屋  
12:45 槍ヶ岳  
17:55 横尾

やはり朝から雨。干太辺りでは横たぐりの  
雨に。雨の中、ひたすら登る。  
雨の槍をピーク。くたくたにハシコは壊れた。  
いた。明日、お天気の回復が見込め  
るにないのび下山を決定。  
横尾へサマソン迄やたらと長く感じ。3人供  
湯水がピークにきていた。  
サマソンはまさしく天国だった。

### 反省と感想

あとという間にすぎた縦走合宿だった。2年2人に1年1人というパーティ  
だったので、ずいぶん楽しかったが、その分気をゆるめないうちで、いつも考えていた。  
1人で、これだけの縦走をするのは無理だろう。2人がいてくれたおかげで、  
できた縦走だと思った。最後までいけなかったのは残念だが、何かを得られた  
縦走だったと思う。

反省としては、落ちし物の解さ。サマソン見ながら、本当に良かった。

(横山)

## 縦走合宿の反省と感想 (バック隊)

### ～反省～

反省する点はただ一つである。それは、この縦走に対してのモチベーションが低かったことだ。自分の縦走がっぶれ、他の人の縦走には、とても行く気にはなれず、二人には迷惑もかけた。そういった意味で、自分の精神面での調整不足だった。身心ともにトレーニングに励みたいと思います。

### ～感想～

昨年歩いたルートと全く、逆ということであつたが昨年とは、全く違った視点で歩けた。ただ、ついていっただけで、何も覚えていながつた昨年とは違い、今年は、いろいろなことが見えてきた。心に常に余裕を持つことができた。

天気が悪く、結局、晴れたのは、最初の暑い樹林帯だけ。昨年と同じ雨にびしょ濡れの縦走だった。昨年から、夏は変わった。夏は、雨の季節になった。

2年 梶原 恵

# 縦走合宿の反省と感想

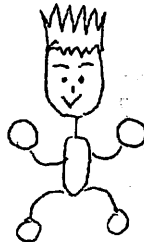
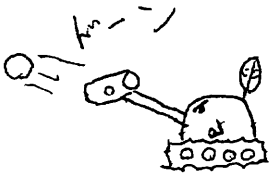
石岡春彦

## 感想

北アルプスの主な山々を北の端から歩き通すことができた。充実した山行であった。10日以上も山に入るのは初めての経験であり、日程の前半では体力的にかなりきつさを感じたが、後半には何とか慣れることができた。あまり天気恵まらず、眺望は楽しめなかったため、晴れた時にもう一度登ってみたい。穂高に登り残したのが残念ではあるが、概して楽しく、得るものの多い縦走だったと振り返ると思う。

## 反省

- ・事前の体力作りが不足していた。
- ・疲れるとフーフウの行動がのろくなる。
- ・文句が多い。
- ・パミカンは塩・ニしょうを多目に入れるとうまい。



Who?

# 南アルプス縦走(夜叉神南アルプス3000m峰～大無間山小無間山)

・日程 8月3日～8月21日(14+5)

・メンバー ○松壽林太郎(2年) ○中村圭一(1年)

8/3

4:00 起床  
4:45 夜叉神峠登山口出発  
7:00 杖立峠  
9:41 南御室小屋T.S着

前日にスキ山のシバさんに送ってもらい、登山口にある東屋で寝た。1ピッチ目で中村がバテて先が心配になった。次ピッチから突然復活して安心した。天気が良く、南御室T.Sでのスイカはウマかった。

8/4

3:00 起床  
4:10 出発  
6:07 観音岳山頂  
10:38 早川尾根小屋  
2:10 アサヨ峰  
3:00 ヤミ天場T.S

天候が良いことがわかっていたので、早川尾根小屋で水を補給してヤミ天をしようとして計画。左に北岳、右に甲斐駒を眺めながらの縦走。仙水峠までは行けなかつたが、栗沢山手前で良いT.S.を見つけた。

8/5

3:00 起床  
4:07 出発  
5:44 仙水峠  
8:00 甲斐駒ヶ岳山頂着(ピストン)  
1:11 仙丈岳五合目  
3:15 ヤミ天場(馬ノ背)T.S.

朝からガスが出て、甲斐駒付近では雨が降り出す。北沢峠で、仙丈避難小屋が使えないことがわかり、ヤミ天決定。下調へ不足を反省した。しかし、行程は計画より一日短縮することができた。

8/6

3:30 起床  
4:40 出発  
6:08 仙丈岳  
9:11 伊那荒倉岳  
11:10 野呂川越  
3:23 三峰岳  
5:25 農島小屋T.S.

1ピッチ目から雨が降り出す。仙塩尾根もペースが上がらず、三峰～間岳間では、風も強く、ななつら行程だった。伊那荒倉岳では、空パットボトルを補給できて、ラッキーだった。この今日のつらい経験は、二人にと、とてもいいものだったと思えた。

8/7  
4:45 起床  
チン殿

朝から風雨が激しか、たのと  
前日の疲れがあ、たので、チン  
殿とした。二人で差し入れの工  
口本を詠んだ……

8/8  
4:00 起床  
4:45 出発  
5:46 農鳥岳  
8:00 間岳  
10:08 北岳  
1:05 農鳥小屋 T.S

天気が良く3000mからの展望  
を楽しむことができた。中村が  
景色より女の方に目がいい、  
たよくな？ 農鳥小屋の主人は、  
がソコソウだが、意外とイイ人  
だ。た。ピストンは、ものすご  
くパスが速い。

8/9  
3:00 起床  
4:05 出発  
5:55 三回平  
9:20 北荒川岳  
11:58 塩見岳  
3:30 三伏峠手前  
4:35 " 小屋 T.S

又し振りの快晴。そして約半分  
の行程が終、た。眼下に第二の故  
郷、伊那を見つつ、お花畑の中を  
進んだ。塩見からの行程が少しづ  
ろか、たが、良い一日た、た。

8/10  
4:00 起床  
5:04 出発  
7:00 小河内岳  
10:10 高山裏 T.S

朝から風と雨。回復しそうにな  
いので、荒川小屋まで行かず、高  
山裏止まりにしておいた。この辺  
から、植物が南鄙らしくな、てき  
た。

8/11  
4:00 起床  
5:05 出発  
8:05 前岳  
9:15 悪沢岳  
11:18 荒川小屋  
2:10 赤石岳  
3:20 百間平 T.S

雨は降、ていたが風がないので  
結構快適だ。た。悪沢岳付近でが  
スが一瞬晴れた時はうれしが、た。  
リュウスケさんの赤石避難小屋最高説  
は、シーズン中は営業ということでは  
崩れた。その代わり、百間平は  
ヤミ天にするには最高だと思ふ。

8/12

4:00 起床  
5:00 出発  
7:00 大沢岳  
11:23 聖岳  
1:32 聖平 T.S

今日の登山も雨だったが、思、ていたが、  
聖岳の登山も雨だったが、思、ていたが、  
聖岳の登山も雨だったが、思、ていたが、

8/13

4:00 起床  
5:00 出発  
7:10 上河内岳  
1:10 光小屋 T.S

深南部の山は良い。原生林  
の中を歩くと、頭上から光  
の道難着た。小屋の中は、

8/14

3:30 起床  
4:38 出発  
8:32 信濃俣  
13:33 大根沢山手前  
15:40 アガミ沢のユル付近 T.S.

出発と同時に終始雨。話に  
よれば、この日神奈川で大雨の  
たがめ多く、この人が亡くなる事故  
がある、たがめ多く、この人が亡くなる事故

8/15

4:00 起床  
5:10 出発  
8:15 大無間山  
12:20 小無間小屋  
13:40 田代  
15:30 井川駅

最終日も雨があつた。周  
の植物も山の様な相になつて  
きていた。二人で「マクド」と叫  
びながら下山。最後は自分が  
股下になり、情けない終わ  
りだ。た。井川駅までは、小  
金井市役所山岳会の人を送つ  
てくれた。

### 縦走の反省と感想

二人ということでは軽量化には気を配つた。たつたが、最  
初の三日間くらいは、かなりのホッカとなつた。エッセンと天  
気図を同時進行で進めるには、二人だと苦勞した。中村の使  
靴は一日縮めることのできるもので、計  
画より一日行程を欠くことになり、二  
人で全行程を欠くことになり、二  
人の深南部はなかなか興味深い。池口岳や加加森山へ行  
きたい。

## 縦走の反省と感想

中村圭一

反省 2週間縦走中、おと前を歩いていたのだが

最後の方 脚最後の2日間は、疲れから、集中力が

と下り落ちた。また、この地図にはのっていない

道なのに、ここは、注意力が欠けてしまい、赤テープを

何度も見のがすことがあった。もっともと色々事に

注意して歩くべきであった。

感想 2人きりの Love<sup>2</sup> 山行ではあったが、初めての長期縦走

で、様々な面で、自分にとってプラスとなる山行だった。

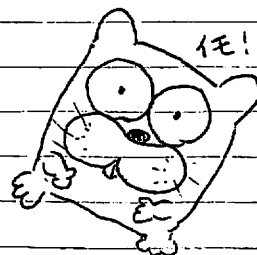
これは、2週間ともなると、色々な人々に会うことで、世間の

狭さを感じた。やはりこれほど山に行く時の楽しみでは

なかったらうか。 人との出会い、山の雄大さ、美しさ。

そして、最後、2人の鬼力は、この先おとし、これ

はなと続けるつもり。





# 穂高岳 屏風岩東壁・雲稜ルート

山行期間 1999・5・17～5・18(2+0)

メンバー L 麦谷水郷(4年)・岸本俊朗(3年)

5月17日 17:15 坂巻温泉発 5月18日 5:00 横尾発  
by ちゃり 7:30 T4 登はん開始  
20:00 横尾着 1:00 雲稜ルート5ピッチ目着、懸垂開始  
3:45 横尾着

今回の山行の主たる目的は、屏風岩雲稜ルート3ピッチ目の5・11bの偵察であった。我々は、5・11b いえども本チャンのフリールートは、登る人間が少ないだけにグレードは上げさに付けられているのではなかろうか、と密かに期待していたが、見事その期待は裏切られた。本チャンにして正真正銘の11bに思われた。ルートの技量的核心は最初の5メートルで、小さなホールドでの立ち込みであるが、精神面での核心でもある。というのは、その核心が終わるところまでペツルがなく、それまでは腐ったリングボルトをランナーとして取らなくては行けないからだ。そんなわけで我々のやる気は更々失せてしまった。もっとも今回は偵察だから登るつもりはなかった(?)のだけれども、残念ながら、私は当分トライすることはないだろう。岸本はどうだか知らないが、けれども、ペツルが打ってあるとはいえ、本チャンらしく冒険的要素が残っているのはよいことだ。

## 屏風岩東壁(雲稜ルート)

5月17～18日(2+0)

岸本・麦谷

5月17日(金) 3限目まで授業があったのでこの後、慌たてしく松本を出る。坂巻温泉にバスを止めちゃりニコで横尾までがんばる。途中、日が暮れヘッドランプのたよりない光をたよりに横尾へたどり着く。

5:40 坂巻 → 8:20 上高地

5月18日(土) 前日の夜は軽量化のためにツェルト泊だったのでこの日は寒くて目が冷める。EPIのガス缶も麦谷くんが忘れたので前夜に引き続き朝から火を起す。すはやく朝食を済ませ屏風へ向う。平日のためが他パーティーはいなかった。シーズを始めなので自然落石が多いのが心配だったが、それ以外は岩も硬く天気もよくて申し分のない登山だった。行きは自転車は少々面倒だが自転車は帰りに大活躍する。(横尾～上高地間も自転車だった1時間がかからない!!)

4:00 起床 → 7:00 取付 → 12:30 下降開始 → 2:30 取付 → 3:30 横尾

# 錫杖岳前衛フェース (1ルニゼルト)

6月12~13日 (2+0)

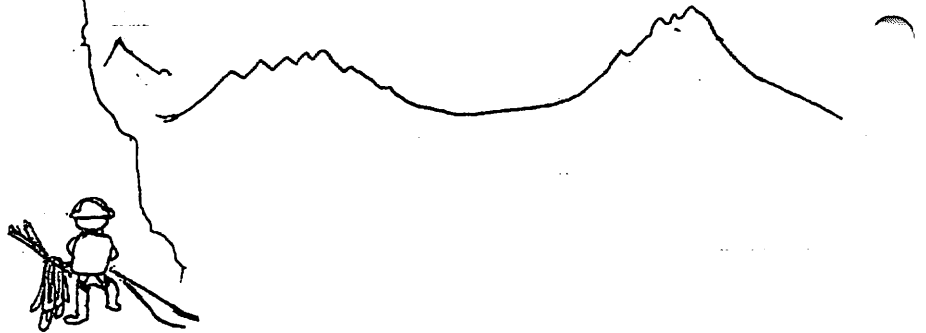
岸本(3), 中島(4), 横山(J)(2), 松峯(2)

6月12日(土) この日のうちにクリヤ谷と錫杖沢の出会いのT.Sまで行きとこに泊まる。土日のため他パーティーが多くテニ場を見つけないのに苦勞した。又カカヒという吸血木型昆虫が多くて4人してもたえた。

3:20 権見温泉 → 4:30 T.S

6月13日(日) とくに迷うこともなく取付きを見つければ岸本, 松峯(中島横山(J))でガイルを組んで登った。1ルニゼは始めから終りまで非常にスッキリしたルートですばらしい。この日は終日天候の方もよすしく充実の一日だった。

4:00起床 ~ 5:45取付 ~ 6:10登ハシ開始 ~ 10:20終了(A1Pター) ~ 11:20下降開始 ~ 1:20取付。



## 針木雪渓 (雪訓) 6/12 ~ 6/13 (東動2)

メンバー: 岡本 日高 持地

6/12 5:35 ~ 6:33 ~ 10:40 ⇔ 10:50 ~ 4:00  
扇沢飛 大沢屋 針木T.S 雪渓で雪訓

6/13 5:00起床 ~ 6:00 ~ 1:30 ~ 3:00 ~ 4:50  
雪訓開始 針木解散 雪訓終了 扇沢

# 餓鬼岳～燕岳 6/12～6/14 (2+1)

CL 梶原恵 (2) 横山輝生 (2) 中川隆志 (1)

6/12 (土) 快晴

6:50 白沢口出発  
10:20 大風山  
11:45 百曲り  
13:00 餓鬼岳小屋  
14:15 " 山頂ピストン

一日中晴れていて、白沢は、清涼感、漂ういい沢だった。テントを張ってから、水場を探すが、水はなし。雪溪の水を溶かして、ろかして水をっくる。おー大変。

6/13 (日) 快晴

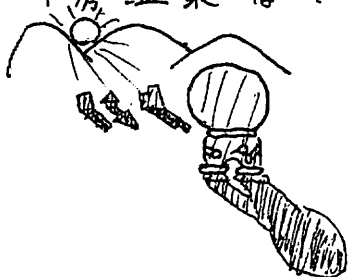
4:00 起床  
5:20 出発  
6:10 剣ズリ  
8:15 東沢岳  
8:40 東沢乗越  
11:20 燕岳  
12:40 合戦小屋  
14:30 中房温泉

朝のうちは、雪がクラストしていて、怖かった。ガキ～東沢岳は、岩場が、多少、出てきたものの、思ったよりは、怖くなかった。燕岳の手前で、雪が残っている所、トラバースで、雪がゆるんでいたせいか、中川が、落ちた。10m程滑べた後、止まる。疲れていて、注意力が低下していたと思われる。無事で何よりだったが、

以後ないように。やはり、山から降りてきたら温泉だ。

中房温泉はいいね。

記) かいはろ



6/12(土) ~ 6/14(月)

甲斐駒ヶ岳・ダイモントAフライング 赤蜘蛛ルート

メンバー: L. 麦谷(4年), 川井(4年)

6/12(土) 12:30 発 ~ 19:00 T.S.  
竹宇駒ヶ岳神社 ~ 八合目岩小屋

・黒戸尾根はやはり長かった。しかも暑い。  
八合目の岩小屋は、他のパーティーがいなければ  
とても快適に過ごせる場所である。

6/13(日) 5:30 発 ~ 6:30 : 7:25  
T.S 取り付き 登山開始

17:10 ~ 18:50 ~ 19:30 T.S.  
登山終了 岩小屋 七合目

岩小屋から取り付きまではあまり問題となる様な場所は  
無いが、足元が崩れ易い所もあるので要注意

1P目。30目のピトンにかかっていた残置シュリッケにアツミ  
をかけ、体重を移動した時、フォローの川井が落す。シュリ  
ッケが切れてしまった。リードが大丈夫だったからと油断し  
た訳ではないが、缶詰が甘かったのか…。この後、立ちた  
お木があった自分がたさげなくて仕方ない。

ルート図(日本のクラシックルート・山ケイ)での4P目でルーファイヌ。  
それ以外にはあまり問題無かったが、時間がかかり過ぎて  
しまった。

このルートに取り付く前には、ナッツ、フレンスの使い方に十分  
慣れてから行く必要がある。又、ピトン、シュリッケ等、残  
置されているものはかなり古い。

6/14(月) 4:55 発 ~ 8:30  
T.S 竹宇駒ヶ岳神社

やはり長かった。

(記) 川井

錫杖岳前衛フェース(左方カニテルート) 6/26

L: 岡本

6/26 4:00起 ~ 4:30 ~ 6:40 ~ 10:24 ~ 12:40 ~ 14:20  
槍見温泉発 とはみ開始 終了 とりつき 槍見温泉

錫杖岳前衛フェース(①1ルニゼ→東肩ルート)  
(②2.3間リッチルート)

7月9日~7月11日(3+0)

岸本(3), 松寄, 横山(J), 横山(N)(2)

7月9日 松本~槍見~出合いのT.S

7月10日 1ルニゼは前回登っているので特に問題なし。ルートの上  
半分は2通りルートがとれるようでどちらを登ってもグレ  
ードに差はない。どちらもそれなりに楽しめる。鳥帽子岩  
へのアプローチには少し迷った。前衛フェースの裏側には  
わりと平坦なバーンする形で着くには着いたが。後で上が  
ら見ると、前衛フェース側にし、カリトレースがあった。  
東肩ルートは記述(日本の岩場)と大幅に違う。鳥帽子岩の  
裏側、北面を登るような形になる。鳥帽子岩からの下りは  
右ルニゼを数回懸垂を交えてひたすら下ることになる。雨  
の直後等はスリップ等に注意。

3:40起床 ~ 4:45出発 ~ 5:30登ハニ開始 ~ 9:15終了 ~ 10:10Bルート終了。  
~ 11:50東肩ルート取付 ~ 1:35終了 ~ 1:40下降 ~ 2:20取付 ~ 4:45B.C.

7月11日 この日は1ルニゼと3ルニゼの間にある2.3間リッチル  
ートを登る。取付きと1P目がわからず4人でウロウロと迷  
う。結局ルニゼ杖の側壁からチムニーを登り大バンドに  
出た。2.3間リッチの左側には2ルニゼがあり、ルニ  
ゼもあるようでルニファイ等で非常に迷う。ルニゼ内に複数  
の凹角を抱えるような形で成り立っている。記述に「凹角  
を登る」とあり、でもどの凹角が判断に迷う。4.5ピッチ目  
になると自分がリッチを登っているのがようやくわかる。  
基本的に全体を通して岩がもろく、傾斜もそれなりにきつ  
い。天気が持ちようがないので人工のピッチを前に下降を  
始めた。案の定、取付きに戻ってから本格的に降り出し、  
ホッと胸をなでた。

3:40起床 ~ 4:35出発 ~ 6:00登ハニ開始 ~ 10:45打ち切る ~ 12:00取付  
3:00槍見温泉

岡本の計画記録

餓鬼～常念      7/10～7/13 (実動3, 予備1)

7/10    4:15 起床～4:55 ～7:55 ～10:03 ～12:57 ～3:40 ～4:03  
         白沢登山口 大田山 餓鬼小屋 東沢岳 燕岳 燕山荘T.S

7/11    4:00 起床～5:05 ～7:15 ～9:00 → 9:37 ～12:07  
         T.S 大天岳 常念小屋 常念岳 一肢の駐車場

赤木沢      中島, 日高

7/31(土)    11:30 折立 / 12:00 発 ～ 14:30 五光岩ベンチ  
         ○      ～ 15:30 薬師峠 T.S

8/1 (日)      4:00 発 ～ 5:40 薬師沢小屋, ～ 7:20 赤木沢出合  
         ○      ～ 10:40 中俣乗越 ～ 13:20 薬師峠 T.S

8/2 (月)      6:00 発 ～ 9:00 折立

8/5(木)

錫杖岳・烏帽子岩前衛フェース 1ルンセ

メンバー: L 川井(4年), 野田(4年)

8/5(木) 5:00 発 ~ 5:50 ~ 9:00

槍見温泉 出合 取り付き

9:30 ~ 12:30 ~ 14:00

登山開始 50%目終了 取り付き

~ 16:10

槍見温泉

。3度目の錫杖なというのに、別の沢をつめてしまい、道に迷、たのが痛い。情け無い。2人共他の事に頭を、持、ていかけていたか?。頭の切り替えか下手。

ルート自体はなかなか面白か、たが最後まで行けな、たのか残念。

(2) 川井

釜ノ沢 △ 日高, 岡本, 松崎, 横山, 中川, 石岡, 野川

9/2 ~ 9/3 (実動2 + 予備0)

9/2

4:30 松本出発 → 8:20 西沢溪谷入口

9:00 出発 → 13:30 魚止めの滝 T.S.

9/3

6:45 T.S. 出発 → 10:00 木場を越え 甲武信小屋

11:40 下降開始 → 2:00 駐車場

沢がはじめての人を連れて行くのに良い沢です。少く河原歩きが、だるいか! エメラルドグリーンの淵やホウ 貝のゴルジュの中の宇宙、ナメのナイゲと、遊びと驚きの要素に満ちている。あと、フライがめば、テンな下、快適に寝山ます。おやすみ。

# 縦走・北ア 鹿島檜～五竜～唐松

9月10～9月13日(3+1)

岸本, 岡本, ヒモに(3)

9月10日 車2台で行き一台を下山口の猿倉へ置き大谷原へ戻り登り始める。赤岩尾根は去年の冬の印象が強烈で夏でも瞬間を食うかと思っただが、ノビリ歩いて昼前に冷地に着いた。五竜山荘へ行こうか迷ったが、前日の寝不足もあってやめにした。

7:30大谷原～10:00高千穂平11:30冷池

9月11日 「明日は乗をした」 という強烈な願望が手伝ってこの日はいきなり天狗山荘まで歩いた。雨が降、下り止ると空気が吹いたりとあまりいい天気ではなかったが、天狗山荘の手前の登りで晴れ間が出て気持ちよくなった。唐松の山荘手前で実家(4葉)の隣りのおばさん5人隣りのおばさんに出会った。「アニタラニニで何してんだ...」お袋さん達は強い。

4:00起床～5:10出発～6:20鹿島檜～10:10五竜～12:30唐松山荘  
～3:50天狗山荘

9月12日 朝のうちには稜線上は風が強くガスも濃かった。白馬鑓をピストにするが以外に遠かった。戻ってからは鑓温泉経由でみたす猿倉まで降りる。下山後は八方温泉に入り汗を流した。

(記録なし)白馬鑓ピストニ50分, 分岐～猿倉3時間,



← 最初依伊とーを描こう  
と思っていざんをけと"...

五  
口



西穂 ~ 奥穂 ~ 槍ヶ岳 ~ 燕山荘 ~ 中房温泉

中島・大木

9/11

11:55 上高地 ~ 14:55 西穂山荘

9/12

5:20 茶 ~ 7:15 西穂 ~ 11:40 奥穂

9/13

5:40 茶 ~ 7:15 北穂 ~ 9:30 南岳小屋  
~ 11:00 大食岳 ~ 11:30 槍ヶ岳

9/14

5:15 茶 ~ 5:30 西岳 北岳  
~ 9:10 燕山荘 ~ 11:00 中房温泉

加々



～編集後記～

Let them be Komaxian....

愛は世界を救います。だからあなたも

こまくさ ^ ...

五口

秋の夜長にひたりののは、柿原、明美の“yes” (CD)

これを見ながら夜、コ-キ-をすする。

ウン、とても大人な時間。  
(去年も同じ事書いたけ?)

(K)

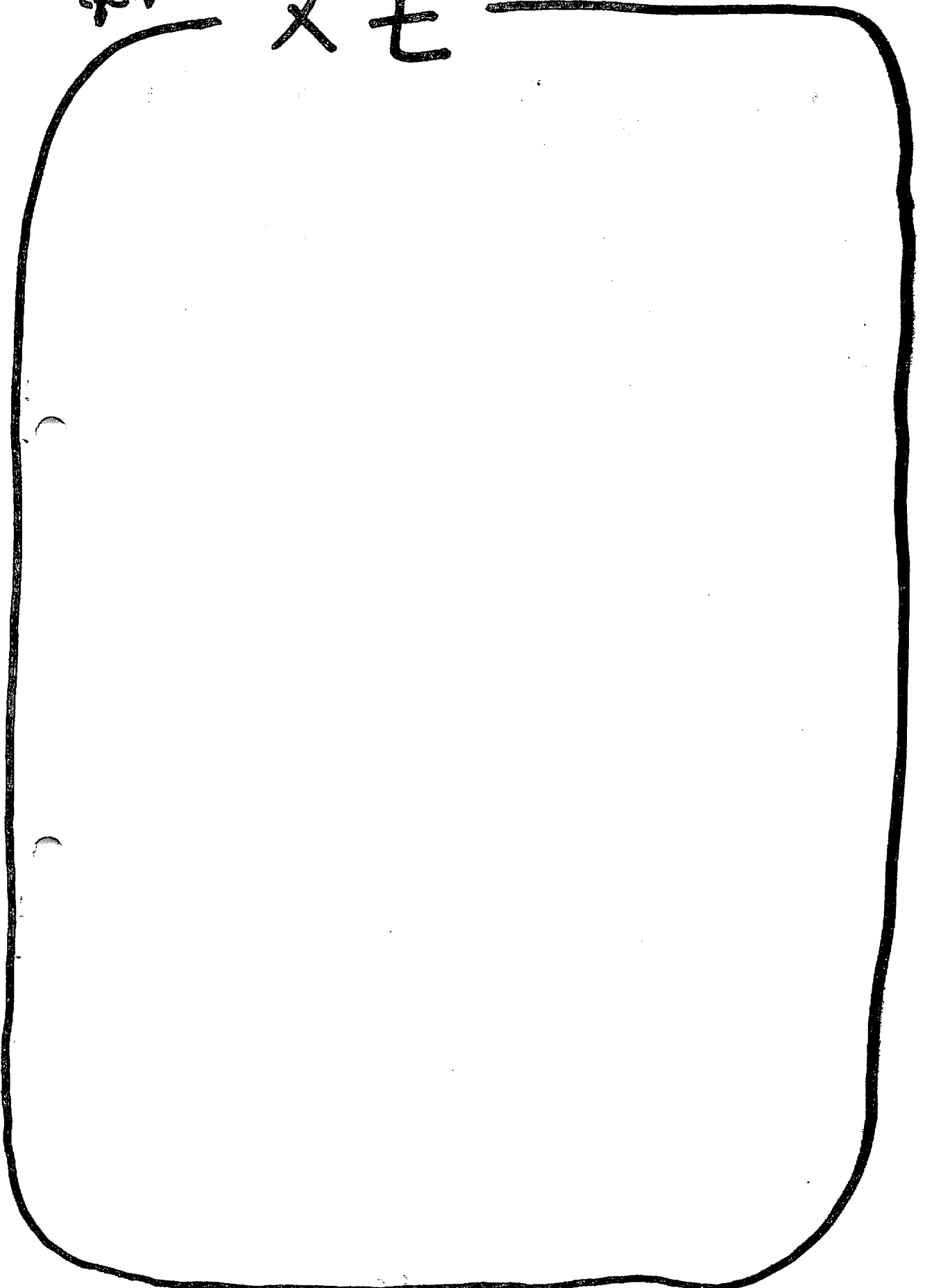
秋の夜長にひたりののは“ひとみりょう”のビデオ  
を見ながら自分で自分をエンターテインする....

ウン、とても大人な時間。

eg + Lin

100

入毛



いい男というものは  
女が決めるんやない。  
男が決めるもん  
なんや。

by 大塚ねねの  
だんた

表紙 : 中川

編集 : 野子川

印刷 : 松本

発行 : 信州大学山岳会。

